

グループハウスかわかみ 地域連携推進会議議事録

日時：令和8年3月8日（土） 10：00～11：30

会場：蒜山慶光園 会議室

（見学：共同生活住居 ディアス・ファミリア・ブルーム・ひまわり）

出席者：H（地域の関係者）、Y（家族）、I（利用者）

花原 翔（グループハウスかわかみ管理者）

入澤 毅（グループハウスかわかみサービス管理責任者）

横浜秀之（法人理事）

協議内容：

1. 事業所概要について

- ・具体的な支援はどのようにしているのか。

→世話人が食事、清掃等の家事面、生活支援員が介護、援助面を受け持っている。

夜間は生活支援員等が宿直、夜勤配置の中で対応し、朝、夕は世話人、生活支援員が分担し複数体制で援助している。日中はほぼ全員が日中系事業所に通所される。

今年度は、夕食提供が一般的な夕食時間に比べて早い状況があり、支援者間で議論を行い、遅らせることにした。職員の働きやすさとの両立も必要であり悩ましいところだが、今後少しずつ議論を進めていきたい。

- ・今年度は前年度と同じ支援員が担当しており、慣れてくださって話がしやすい。昨年度以前は毎年担当職員の交代がある状態で、自分が覚えたら担当が変わってしまう感じだった。

→人事異動については、法人が大きくなる中でどうしても多くなってしまう状態はあると思う。そのような中でも担当支援員の紹介、情報提供など配慮していきたい。すべてご希望に添えるかは分からないが、今後ご意見があればいただきたい。

2. 施設見学について

- ・家庭的な生活を送っておられることがイメージできた。

- ・利用者の趣味による家庭菜園、絵画等飾られているのを見て、雰囲気の良さを感じた。

3. 事業所の取り組み、課題について

- ・私は、入居して自由に買い物に行けないことに戸惑いがあった。職員はほかのこともあるため、すべて自由な対応をすることは難しいと思う。徐々に慣れて、不便は感じなくなった。

→自由な買い物は難しい状況だが、週に1回程度は引率し買い物を行うことができるようになり組んでいる。職員都合にならないように、定期的に振り返りながら支援にあたっている。

- ・買い物は、どのあたりに行っているのか。

→主には蒜山内のスーパーやホームセンターに行っている。事前に計画を立て、鳥取県倉吉市内の店舗にでかけることもある。